

授業科目 (科目ID)	精神保健福祉の原理		担当教員  (実務経験)	西野 克俊  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意識を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉士の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。				
到達目標	①障害者福祉の理念や歴史的展開から、精神障害の概念を学び、精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方を理解する。 ②人権や社会正義に照らして教訓とすべき考え方を習得し、精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態の理解を深め、精神保健福祉士の存在意識を理解し、実践上の着眼点や場面・状況に応じた行動特性を学ぶ。				
テキスト・参考図書等	『最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉士の原理』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中法法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期テストの点数を換算し、60%での評価を行う。 また、レポート及び提出物の点数を換算し、40%での評価を行う。		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	%				
履修上の留意事項	教科書・プリントを使用し、講義およびグループワークを行う。 また、積極的受講態度で、知りたいという意欲を持ちながら授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	障害者福祉の思想と原理について		
	2	障害者福祉の理念について①	ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン等		
	3	障害者福祉の理念について②	エンパワメント・自立生活・機会均等 等		
	4	障害者福祉の歴史的展開について①	基本的人権の保障・自立支援		
	5	障害者福祉の歴史的展開について②	社会参加支援・権利保障		
	6	国際機能分類について	ICIDH・ICFの理解		
	7	制度における「精神障害者の定義」について	障害者基本法・障害者総合支援法・精神保健福祉法		
	8	精神障害者の障害特性について	蜂矢モデル・上田モデル		
	9	諸外国の動向について	ピアーズ・魔女裁判・ビネル等		
	10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事①	相馬事件・ライシャワー事件		
	11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事②	宇都宮病院事件・大和川病院事件		
	12	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事③	池田小学校事件・相模原事件		
	13	社会的障壁の理解について①	結核事項・強制不妊手術等		
	14	社会的障壁の理解について②	コンフリクトの種類等		
15	社会的障壁の理解について③	人権侵害・アルコール・薬物問題等			

16	精神科医療の特異性について①	強制入院・治療・精神科特例等
17	精神科医療の特異性について②	隔離・身体拘束・多剤併用等
18	精神障害者の家族について	保護義務者の歴史・家族の多様性等
19	精神保健福祉士の資格化に至る経緯について	精神医学ソーシャルワーカー協会・Y問題等
20	原理・価値について	社会的復権と権利擁護・自己決定・当事者主体等
21	観点・視点について	人と環境の相互作用・アンチスティグマ等
22	関係性について	加害者性・援助関係・協働関係等
23	精神保健福祉法について	法の目的・定義・義務規定等
24	精神保健福祉士の職業倫理について①	倫理綱領等
25	精神保健福祉士の職業倫理について②	倫理的ジレンマ等
26	精神保健福祉士の業務特性について	業務構成・包括的アプローチ・連携等
27	精神保健福祉士の職場・職域について	医療・福祉・行政・教育・司法・産業等
28	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①	業務指針・業務分類等
29	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②	指針に基づく業務の展開例等
30	まとめ	総合的まとめ

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		担当教員  (実務経験)	山口 愛  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として産業メンタルヘルズに勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害および精神保健福祉士の課題に対するソーシャルワークの理論とその方法の過程を理解し、実践力をつける。</li> <li>精神障害者および精神保健福祉士の課題をもつ人と家族の関係を理解し、対象者とその家族への支援方法を獲得する。</li> <li>精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入、組織活動の展開に関する概念と方法を理解し、実践力をつける。</li> <li>精神保健福祉分野以外の実践展開に必要な知識・技術を理解し、実践力をつける。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害と精神保健福祉の課題と、精神保健福祉士がどのようにソーシャルワーク展開を行うか説明できるようになる。</li> <li>精神保健福祉士として、地域課題に必要な知識・技術を活用し、自らの専門分野に固執せず、他の保健医療福祉専門職、異業種の専門家、障害当事者や地域住民との連携、協働を推進できるようになる。</li> <li>既存の実践知と支援システムの対象、効果、課題、限界などを知り、多様化する精神保健福祉課題の解決に資する理論やモデルを生成するために、知識・技術を発展させる志向性・創造性をもつよう努力できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験の点数・記述内容ほか演習授業等への参加姿勢、学習意欲、論点理解、小テスト(確認テスト)の点数、その他提出物の文章構成スキル、要約スキルを総合して評価する。</li> </ul>		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	20%				
履修上の留意事項	<p>授業実施は、教科書を中心に、パワーポイントで内容を示しながら進める場合(山口)と、板書にて進める場合(高張)があります。パワーポイントで示す場合は、板書を行いませんので、各自教科書を参照しノート等にまとめながら理解を深めるようにしてください。専門職の学習は、獲得した知識・技術を実際にどのように使うのか(状況、実施場面、タイミング、対象者)を想定しインプットを行いましう。授業により、理解を問う確認テストを行う場合があります。</p>				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要(高張)	ソーシャルワークの構成要素・展開過程		
	2	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要(高張)	ソーシャルワークの基本視点・マイクロマクロレベルにおける展開		
	3	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(高張)	援助関係の形成技法・インテーク		
	4	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(高張)	アセスメント(情報分析・本人や環境の理解・ツールの使用)		
	5	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(山口)	面接技術とその応用(面接構造・面接技術)		
	6	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(山口)	集団援助技術(グループワークの概念・意義・方法・展開過程)		
	7	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(山口)	集団援助技術の実際(演習)		
	8	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(山口)	アウトリーチ(精神保健福祉士の役割・それぞれのケース理解)		
	9	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(高張)	支援の展開(人・環境へのアプローチ)事例分析		
	10	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(高張)	支援の展開(ケアマネジメント)・ストレングスモデル		
	11	精神保健福祉分野における家族支援の実際(山口)	精神障害者家族の課題(精神保健福祉法と家族・ケアラーの支援)		
	12	精神保健福祉分野における家族支援の実際(山口)	家族理解の変遷・家族支援の方法(対象と機能・方法)		
	13	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法(山口)	面接技法(傾聴スキル)		
	14	精神保健福祉分野における家族支援の実際(山口)	家族支援の実践的理解		
15	コミュニティワーク(高張)	精神保健福祉分野のコミュニティワークの意義と実践			

16	コミュニティワーク(高張)	地域における精神保健福祉の向上(住民参加・予防的アプローチ)
17	ソーシャルアクションへの展開(高張)	基本的視点、個別支援から地域における体制整備、政策提言と展開
18	ソーシャルアクションへの展開(高張)	精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開
19	他職種連携・他機関連携(チームアプローチ)(山口)	連携の意義と目的、他職種連携・他機関連携の留意点
20	他職種連携・他機関連携(チームアプローチ)(山口)	チームビルディング・ファシリテーション
21	他職種連携・他機関連携(チームアプローチ)(山口)	チームの形態と特徴・精神保健福祉領域のチームと形態
22	他職種連携・他機関連携(チームアプローチ)(山口)	連携における精神保健福祉士の役割、チームアプローチの実際
23	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義(高張)	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義
24	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義(高張)	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法
25	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義(高張)	人材確保と人材育成
26	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義(高張)	事例演習
27	関連分野における精神保健福祉士の実践展開(山口)	学校教育分野(スクールソーシャルワーカー・業務内容と課題)
28	関連分野における精神保健福祉士の実践展開(山口)	産業分野(産業分野の精神保健福祉士の特徴)・EAPの支援事例
29	関連分野における精神保健福祉士の実践展開(山口)	司法分野(司法分野の支援内容・被害者等の支援・実践課題)
30	関連分野における精神保健福祉士の実践展開(山口)	災害分野(精神保健福祉士が行う災害支援活動)



授業科目 (科目ID)	精神障害リハビリテーション論		担当教員  (実務経験)	遠藤 克彦  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	精神障害リハビリテーション論は、精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理したうえで、精神障害リハビリテーションについて詳しく学ぶ。				
到達目標	精神障害リハビリテーションの概念やリハビリテーションプログラムを理解し、援助場面で活用できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	ペーパーテストにて評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	テキストや最新情報を取り入れ、精神保健分野で行われているリハビリテーションを中心に学習していく。また、精神障害当事者や家族の方々、その取り巻く環境を深く理解されていくことを望む。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係		
	2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割		
	3	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	理念と定義		
	4	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	医学的、職業的、社会的、教育的リハビリテーション		
	5	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	基本原則		
	6	精神障害リハビリテーションの理念・定義、基本原則	リカバリー概念とリハビリテーションの意義		
	7	精神障害リハビリテーションの構成および展開	精神障害リハビリテーションの対象		
	8	精神障害リハビリテーションの構成および展開	チームアプローチ、精神障害リハビリテーションのプロセス		
	9	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	医学的リハビリテーションプログラム		
	10	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	職業的リハビリテーションプログラム		
	11	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	社会的リハビリテーションプログラム		
	12	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	教育的リハビリテーションプログラム		
	13	精神障害リハビリテーションプログラムの内容	家族支援、その他のプログラム		
	14	精神障害リハビリテーションの動向と実際	当事者や家族を主体としたリハビリテーション		
15	精神障害リハビリテーションの動向と実際	依存症のリハビリテーション			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	精神保健福祉制度論		担当教員  (実務経験)	定平 憲之  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	精神障害者に関する法制度の体系について理解する。また、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。				
到達目標	精神保健福祉法、医療観察法などについて理解するとともに、精神保健福祉士の役割について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新・精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	定期試験、小テストにて評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	適宜プリントを配布し、必要に応じて視聴覚教材を活用します。精神保健福祉士にとって中核となる科目であり、積極的かつ十分な学習を心がけてください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神障害者に関する制度・施策の理解	精神障害者に関する制度活用の流れ		
	2	精神障害者の医療に関する制度	精神保健福祉法の概要		
	3	精神障害者の医療に関する制度	入院形態等		
	4	精神障害者の医療に関する制度	人権擁護(精神医療審査会等)		
	5	精神障害者の医療に関する制度	医療観察法の概要		
	6	精神障害者の医療に関する制度	精神保健参与員と社会復帰調整官		
	7	精神障害者の医療に関する制度	精神障害者の医療と関連する施策		
	8	精神障害者の生活支援に関する制度	障害者総合支援法の概要		
	9	精神障害者の生活支援に関する制度	居住支援制度		
	10	精神障害者の生活支援に関する制度	就労支援制度		
	11	精神障害者の生活支援に関する制度	相談支援制度		
	12	精神障害者の経済的支援	生活保護		
	13	精神障害者の経済的支援	生活困窮自立支援制度		
	14	精神障害者の経済的支援	障害年金		
15	まとめ				

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク演習Ⅳ		担当教員  (実務経験)	田中 航  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。				
到達目標	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解する力を養うこと、また「当事者主体・当事者を中心としたチームアプローチの考え方」を主軸に置き、精神保健福祉士として当事者に届く相談援助の方法について理解し、「説明できる」「実践できる」技能の習得を目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布する。 参考図書:『失敗ポイントから学ぶ PSWのソーシャルワークアセスメントスキル』大谷京子, 田中和彦 中央法規出版 『医療スタッフのための 動機づけ面接法 逆引きMI学習帳』北田雅子 医歯薬出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	グループディスカッション、ロールプレイの参加姿勢、発言内容、レポートや課題の提出状況などにより評価する。		
	レポート	40%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	精神障がい者に対する援助技術及びリハビリテーション技術が身につくよう、精神障がい者の社会復帰に関する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例検討及びロールプレイ等を行う。演習事例やグループディスカッションでは積極的な発言を求めます。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	演習の目的と意義、授業の進め方、評価方法		
	2	個別援助技術	ラポール形成、個別面接、制度説明		
	3	〃	〃		
	4	課題別相談援助事例①	受診・受療・入院相談援助事例の検討(インテーク面接、アセスメントの視点、情報の収集・分析・全体状況の把握、情報の統合)		
	5	〃	〃		
	6	〃	〃		
	7	課題別相談援助事例②	退院支援、地域移行支援、地域生活継続支援事例の検討(ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用)		
	8	〃	〃		
	9	課題別相談援助事例③	精神科リハビリテーション場面における個別・集団支援事例の検討		
	10	〃	〃		
	11	課題別相談援助事例④	地域における精神保健に関する事例の検討(薬物・アルコール依存事例)		
	12	〃	〃		
	13	課題別相談援助事例⑤	訪問型支援、ピアサポート、家族支援事例の検討(アウトリーチ、心理教育について)		
	14	〃	〃		
15	全体のまとめ	演習において学んだ知識、技術、技能の習得状況の確認			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		担当教員  (実務経験)	田中 航  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務	
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉士としての基本的態度、視点を身につけ、自らの課題を把握するとともに、専門的知識・技術を習得することを目的とする。				
到達目標	①精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態やニーズを把握する。 ②実践的な技術等を体得するとともに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』 一般財団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	グループディスカッションでの参加態度、担当教員からの問いかけに対する応答、課題の取り組み姿勢や内容 およびプレゼンテーションを総合的に評価する。		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	これまでの実習を振り返り、自らの実習の目的、課題を再確認して臨んでください。現場で多くの成果を得るためには、事前準備が必要です。事前準備では、精神疾患・精神障害に関する知識、精神保健福祉法をはじめとする各種法律・制度の理解は必須です。また、自らの今後の課題を設定し、精神保健福祉士としての準備につなげてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の目的と意義		
	2	精神保健福祉の現状	対象者の理解		
	3	精神保健福祉の現状	精神障害者の入院状況、就職状況などの生活状況		
	4	精神保健福祉士として求められる資質や能力	自己覚知		
	5	精神障害福祉領域の実践フィールドの理解	医療機関		
	6	精神障害福祉領域の実践フィールドの理解	地域機関		
	7	実習へのイメージ形成と課題の明確化	実習先について		
	8	実習へのイメージ形成と課題の明確化	実習先の選定		
	9	現場体験学習	障害福祉サービス事業所の理解		
	10	現場体験学習	"		
	11	実習における記録の書き方	実習日誌、プロセスレコードの書き方		
	12	実習における記録の書き方	"		
	13	実習における記録の書き方	"		
	14	当事者の語り	当事者から学ぶ		
15	当事者の語り	"			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	国家試験対策Ⅰ		担当教員  (実務経験)	高田 友子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として社会福祉協議会に勤務	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	自分が受験する社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験の概要を理解し、受験に向けての心構え、学習姿勢を整える。また、本授業を通して、国家試験合格に向けた勉強の仕方を身につける。				
到達目標	①他者と協働して学習に取り組むことができる。②根拠をもって正答を導き出すことを意識する。③過去問題を8割解答できるようにする。				
テキスト・参考図書等	『社会福祉士国家試験過去問解説集2024』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版 (参考図書)『社会福祉士国家試験模擬問題集』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	・左記「その他」は、グループでの取り組み状況、グループでの成果物の評価です ・提出物は、宿題を課しますので、その提出状況および内容の評価となります ・試験は定期試験ではおこないませんが、まとめの評価対象試験を実施します		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	20%				
履修上の留意事項	本履修を通して国家試験合格に向けた勉強方法を身につけることを望みます。グループでの取り組みもその1つです。資料の整理、問題の解き方、メモやノートづくり方など「やりっぱなし」にならないように習慣づけてほしいと思っています。グループでは平等に発言の機会を持ってほしいと期待しています。計画的な学習を意識してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	国家試験の概要理解	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験の概要理解 国家試験合格をめざす理由を考える、効率的な勉強方法を学ぶことができる		
	2	本科目の概要理解	本科目で取り扱う内容・評価、取り組み姿勢として期待すること		
	3	全国模擬試験の復習	全国模擬試験の問題を振り返る		
	4	全国模擬試験の復習	全国模擬試験の問題を振り返る		
	5	科目別知識の習得	社会保障(過去問も使用)		
	6	科目別知識の習得	社会保障(過去問も使用)		
	7	科目別知識の習得	社会保障(過去問も使用)		
	8	科目別知識の習得	社会保障(過去問も使用)		
	9	科目別知識の習得	社会保障の知識の確認		
	10	科目別知識の習得	現代社会と福祉(過去問も使用)		
	11	科目別知識の習得	現代社会と福祉(過去問も使用)		
	12	科目別知識の習得	現代社会と福祉(過去問も使用)		
	13	科目別知識の習得	現代社会と福祉(過去問も使用)		
	14	科目別知識の習得	現代社会と福祉の知識の確認		
15	全体のまとめ	全体を通しての知識の確認			

授業科目 (科目ID)	卒業研究 I		担当教員  (実務経験)	吉岡 秀典  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	自分の研究テーマをもち、調べ学習を行う過程で情報収集の方法、表現方法、説明力、分析力、考察力などを身につけることを目的とする。また、今年度の取り組みを4年次の卒業研究につなげる。				
到達目標	①文献や報告書等を読み、要点をとらえ、自分の考えをもつ、②自身の研究テーマの魅力を他者に説明することができる				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	授業内に提示される課題の内容および提出状況、主体的な取り組み状況やテーマに関するプレゼンテーション(発表内容、パワーポイントの出来栄え、質疑応答)により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	50%			
	その他	50%			
履修上の留意事項	授業を通して自身の「福祉観」を振り返り、どのような実践者を目指すのかを考える機会とすることを望む。テーマの探索、文献の検索や収集などは主体的に行い、収集した文献・データは整理整頓して常に持参すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	科目の目的、内容、評価 自分の研究テーマの設定		
	2	研究テーマの発表	自分の研究テーマとその理由につきプレゼンテーションを行い全体で共有する		
	3	取り組み形態の検討	グループ研究、個人研究の検討		
	4	文献検索の方法	文献検索の仕方を理解し、検索を行う		
	5	執筆要領の確認	文献引用の仕方、出典の明記方法など基本的な記載ルールの把握		
	6	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み		
	7	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み		
	8	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み		
	9	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み		
	10	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み		
	11	個別指導・集団指導	文献収集、文献読み込み		
	12	発表資料の作成	発表用パワーポイント作成、発表原稿の作成		
	13	発表資料の作成	発表用パワーポイント作成、発表原稿の作成		
	14	卒業研究発表	自分の研究テーマにつき、調べた内容および今後の取り組みについて発表する		
15	卒業研究発表	自分の研究テーマにつき、調べた内容および今後の取り組みについて発表する			

授業科目 (科目ID)	キャリアデザインⅢ	担当教員  (実務経験)	高泉 一生  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	本科目は、各人が自分自身の『こうありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のためにどうすれば良いのかを考えるとともに、4年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践することを目的としている。				
到達目標	①福祉専門職の資格の意味を考え、その取得によって伴う責務を述べることができる。 ②国家試験問題の見方や見直しの仕方を理解し、自己分析しながら計画的に学習を進める基礎が備わっている。 ③履歴書の意味や書き方を理解し、自己アピールのポイントをおさえている。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて、配布する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	30%	・左記の試験は「模擬試験」の受験とその点数を意味する。 ・提出物の提出状況や内容、授業への参加姿勢により総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項	各人が自分自身を客観視でき、自分自身の将来についての方向性を持ち、その実現のための手掛かりを得ること、また有意義な学生生活を送ることを期待する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	目標設定	前年度の振り返りと今年度の個人目標とクラス目標の検討、決定		
	2	資格取得の意味	ソーシャルワーカーにとって資格とは何か		
	3	専門学校の特性と学習課題	専門学校の強みと弱み、意識すべき学習課題		
	4	実習にむけた準備①	ソーシャルワーク実践の理解①		
	5	実習に向けた準備②	ソーシャルワーク実践の理解②		
	6	資格取得に向けて①	国家試験内容の確認と取り組み計画		
	7	資格取得に向けて②	国家試験問題の見方		
	8	資格取得に向けて③	社会福祉士国家試験問題への取り組み(全国模試)		
	9	資格取得に向けて④	精神保健福祉士国家試験問題への取り組み(全国模試)		
	10	資格取得に向けて⑤	介護福祉士国家試験問題への取り組み(全国模試)		
	11	資格取得に向けて⑥	国家試験受験に向けた課題の明確化		
	12	就職に向けた準備①	履歴書の意味と書き方の理解		
	13	就職に向けた準備②	面接のポイント理解・実践		
	14	交流会	社会福祉学科の交流・企画・進行		
15	振り返りと自己評価	1年間を振り返り、今後の課題を明確化する			